

# テーマ展「井伊家伝来 狂言の面と装束」展示作品リスト

	名称	数量	時代	所蔵
<b>狂言の面</b>				
1	こくきじょう 黒色尉	1面	江戸時代(17世紀)	当館(井伊家伝来資料)
2	えんめいかじや 延命冠者	1面	桃山時代(16世紀)	当館(井伊家伝来資料)
3	おおじ 祖父	1面	室町時代(16世紀)	当館(井伊家伝来資料)
4	ぬし 塗師	1面	江戸時代(18世紀)	当館(井伊家伝来資料)
5	ぶあく 武悪	1面	桃山時代(16世紀)	当館(井伊家伝来資料)
<b>狂言の装束—肩衣・素襖・半袴</b>				
6	かたぎぬ ちゃじうろこもんよう 肩衣 茶地鱗文様	1肩	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
7	かたぎぬ こんじかにもんよう 肩衣 紺地蟹文様	1肩	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
8	はんばかまもえぎしまるもんちらしもんよう 半袴 萌葱地丸紋散らし文様	1腰	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
9	かけずおう そめわけじふじにはんせんもんよう 掛素襖 染分地富士に帆船文様	1領	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
10	かけずおう そめわけじかわらどくつわもんよう 掛素襖 染分地瓦と轡文様	1領	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
11	かけずおう ちゃじゆきもちざきむかいづるびしもんよう 掛素襖 茶地雪持笹に向鶴菱文様	1領	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
12	すおう こんじかきねにゆうがおもんよう 素襖 紺地垣根に夕顔文様	1組	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
<b>狂言の装束—唐人装束</b>				
13	とうじんしょうぞく こんじうりゆうもんようほかよせぎれ 唐人装束 紺地雲竜文様他寄裂	1領	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
14	とうじんしょうぞく くらじうりゆうまるもんよう 唐人装束 黒地雲竜丸文様	1組	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
15	とうじんしょうぞく ちゃじ もんよう 唐人装束 茶地アイ又文様	1領	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
16	とうじんしょうぞく ひいろじぞうもんよう 唐人装束 緋色地象文様	1領	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
17	とう ずきん 唐頭巾	1頭	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
18	とう ずきん 唐頭巾	1頭	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
<b>狂言の装束—猿皮・蛸冠</b>				
19	さるかわ 猿皮	1組	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)
20	たこかんむり 蛸冠	1頭	江戸時代(19世紀)	当館(井伊家伝来資料)

## 作品解説

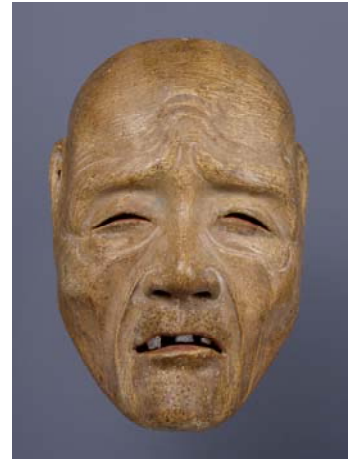
### 1 祖父 1面 (作品リストNO. 3)

面長 20.7cm 面幅 13.6cm 面奥 8.6cm

室町時代 (16世紀)

当館 (井伊家伝来資料)

百歳を超えるような老翁<sup>ろうや</sup>の役で使用する狂言面。高齢の老人の顔<sup>しわ</sup>を写した面で、その顔は左右の均衡がややくずれ、額や頬には深い皺がより、薄く開いた口元からまばらな三本の歯が覗いています。老翁を表す能面・尉<sup>じょう</sup>が、バランスの整った顔立ちで、眉根を寄せ、厳しさを感じさせる表情であるのに対して、「祖父」にはその様な強さは感じられません。自分の身近にいるおじいさんの様な、気取らない親しみやすさのある面です。



### 2 武悪 1面 (作品リストNO. 5)

面長 20.4cm 面幅 16.9cm 面奥 10.3cm

桃山時代 (16世紀)

当館 (井伊家伝来資料)

鬼や閻魔<sup>えんま</sup>を表す狂言の面です。大きな鼻にぎょろりとした眼。食いしばった歯を剥き出しにした、一見、厳つい印象を与える面です。しかし、瞼<sup>まぶた</sup>は腫れぼったく覆い被さり、口角の上がった口元はまるでにやりと笑っているようにも見え、恐ろしさよりも、むしろ愛嬌<sup>あいきょう</sup>を感じさせます。このようなおかしみを感じさせる造形が、狂言面の特徴です。



### 3 肩衣 紺地蟹文様 1領 (作品リストNO. 7)

衿 31.0cm 丈 70.5cm

江戸時代 (19世紀)

当館 (井伊家伝来資料)

肩衣は狂言に特有の袖のない麻地の装束<sup>しょうぞく</sup>です。狂言装束の中でも特に大胆な意匠を施すものが多いことから、狂言を代表する装束の一つとされます。

本作は、紺地に白揚げ<sup>しろあげ</sup> (糊防染で文様を白く染め残す技法) で一匹の蟹<sup>かに</sup>を大きく表した、大胆なデザインの一領。目、はさみ、脚などは墨で輪郭を描き起こし、甲羅には薄い茶色を施して凹凸を表現しています。蟹はまるで、左のはさみを振り上げて、中央にある菊綴じの紋を摘み取ろうとしているかのようです。身近な生き物や植物を文様として取り上げ、それを大胆に意匠化するという狂言装束の特徴がよく表れています。



4 <sup>かけずお</sup>掛素襖 <sup>そめわけじかわら</sup>染分地瓦と <sup>くつもんよう</sup>轡文様 1領 (作品リストNO.10)

衿 98.3cm 丈 62.7cm

江戸時代 (19世紀)

当館蔵 (井伊家伝来資料)

やや小ぶりな子方用の掛素襖。  
<sup>すそ</sup>裾から半分程度に、馬に手綱をつ  
けるための道具である <sup>くつわ</sup>轡を繫い  
だ文様を茶色で表し、上部は様々  
な形の <sup>かわら</sup>瓦を散らした、奇抜なデ  
ザインの一領です。狂言装束では、  
瓦や轡といった身の回りの道具  
や、<sup>かに</sup>蟹のような身近な動植物が文  
様として取り上げられます。

素襖は麻地の装束。長袴とセットで用いられ、上着だけのものを掛素襖といいます。



5 <sup>とうじんしょうぞく</sup>唐人装束 <sup>くろじうんりゅうもんよう</sup>黒地雲竜文様 1組 (作品リストNO.14)

上着：衿 79.3cm 丈 77.5cm

袴：丈 91.2cm

江戸時代 (19世紀)

当館蔵 (井伊家伝来資料)

<sup>とうじんしょうぞく</sup>唐人装束は狂言特有の装束。<sup>とうずもう</sup>〈唐相撲〉などの演  
目の唐人の役で使用します。麻地に染めで文様を表  
す他の狂言装束とは異なる、<sup>きんらん</sup>金欄や毛織物の羅紗な  
どを用いた華やかな異国風の装束です。様々な形の  
ものがありますが、基本となるのは、カルサンと呼  
ばれる、前開きの上着と<sup>すそすぼ</sup>裾の窄まったズボンのよう  
な<sup>はかま</sup>袴の組み合わせです。

本作は、そのカルサンの一つ。黒地に金の<sup>うんりゅう</sup>雲竜文  
が表された<sup>きら</sup>煌びやかな<sup>えり</sup>金欄を用い、襟や肩、袖口に  
オレンジと白のフリルをあしらっています。

